



学校・家庭・地域との結びつき

▼7月14日(金)、市川中学校「学校・家庭・地域連携推進協議会」の総会と専門部会が開催されました。この通称「学家地」は、「生徒や保護者、教師だけでなく、地域の方々や様々な団体が、みんなで考え、手を取り合っ



て、市川中の生徒を大切に育てていこう」という考えのもと、平成5年に創設され、今年で31年目を迎えます。▼総会では、今年度の役員・活動方針・予算が承認されました。専門部による活動として、広報研究部は町の広報と連携し学家地の活動を町民に広く知ってもらう活動を、環境整備部は花植え作業やクリーン活動を、体験学習部はほうとうづくりをメイン活動として展開することを確認しました。▼その後、「地域防災訓練に参加するにあたって、10年後の市川三郷町に向けて、自分たちにできることは何か」について、市川中生徒会が事前に取りまとめたアンケートをもとに、生徒会代表の菅原琉珂さんと三澤芽唯さんが、提案してくれました。▼これを受け、社会教育委員、公民館長、保護司、民生児童委員、安全協会、シニアクラブ、社会体育委員、PTA役員、町民会議といった様々な団体の代表者の方が、提案を受けての感想や普段感じていることを述べてくれました。

<出された意見・感想の抜粋>

- ・今までは町の防災訓練を大人だけで行ってきたが、今年度初めて中学生が参加してくれる。これを機会に、どうい
- ・災害時に中学生の果たす役割は大きい。具体的にどう行動するのか、家庭でも地域でも事前に話し合っておくことが大切である。
- ・SNSの発達で人とのつながりが減っていますので、かわりを持つためにも、挨拶が大切。
- ・市川三郷町に住んでいても知らないことがたくさんある。学校での町内巡りや地域学習はとてもためになる。
- ・今回の話し合いは、地域のことを前向きに考える良い機会になった。

1学期を振り返って

▼21日(金)、1学期の終業式を迎えました。ここでの校長の話の概要です。

▼本日、登校日数73日間の1学期が終了します。先日行った生徒アンケートでは、**93%の人が、学校生活は楽しく充実していると回答**しています。目指すのは100%ですが、多くの生徒が充実した1学期を過ごせたこと、そして、この間大きな事故や怪我もなく、予定していた教育活動が、無事に実施できたことをうれしく思います。▼1学期の終了にあたり、私が感じたことを中心に1学期を振り返りたいと思います。▼まずは、授業中の様子からですが、教科や学年によって多少雰囲気は違うのですが、1年生は、中学校の教科担任制になれたようで元気に授業に臨んでいました。2・3年生は落ち着いた雰囲気の中で、先生の話に耳を傾け、真剣に学ぶ姿が見られるなど、**学ぶ雰囲気**の良さが感じられました。特に3年生はよかったです。さすがですね。この1時間1時間の積み重ねが、最終的には一人一人の学力の向上につながります。▼次に、部活動・生徒会活動についてです。各部とも放課後や休日の部活動に熱心に取り組んでくれました。この結果、6月の総体では、男子バスケットボールと野球が優勝、男女ソフトテニス、女子バレーが県大会出場権を勝ち取るなど、素晴らしい成果を収めました。また全ての部が、力を出し切ったことをうれしく思います。さらに、夏休みにはいと、県総体や県吹奏楽コンクール、水泳の関東大会等が開催されます。吹奏楽部にとっては、最大の発表の場になるかと思

います。練習の成果を発揮し、素晴らしい発表となることを期待しています。▼生徒会活動では、5月の生徒総会で、市川中をより良くしようとの思いからスローガンを「チャレンジャー」と設定し、これまでの伝統を大切に、レベルアップさせるとともに、「SDGs」の視点からの取組や、陵風祭への準備を着実に進めてきています。生徒会最大行事である**陵風祭が、生徒一人一人にとって最高のチャレンジの場、成長の場となることを期待**しています。▼最後に、いよいよ明日から夏休みが始まります。休み時にはしっかり休んで、2学期に備えてエネルギーをたくさん蓄えてください。またコロナ感染や熱中症に十分気をつけながら、有意義な夏休みを過ごしてください。